

柿崎区(一部)に避難指示(緊急)発表

7月1〜3日の大雨

また大雨です。7月1日の大雨は、降り始めからの24時間最大降水量が名立区平谷で217ミリと、昨年7月26日に大手町で記録した観測史上最大の242・5ミリに匹敵する降雨量でした。

翌2日は小康状態でしたが、3日の未明からまた降雨が続く、柿崎区北黒岩では午前4時までの1時間に49ミリ、降り始めから3日正午まで233ミリにものぼりました。

このため、市では1日に板倉区(一部)、和田区、北諏訪区、保倉区、頸城区(一部)など、合計4647世帯に避難勧告、高田区、新道区、春日区に避難準備情報・高齢者等避難開始を出しました。

また、3日早朝には柿崎区の一部に避難指示(緊急)を発表したほか、吉川区の一部と保倉区、北諏訪区、頸城区の一部に再び避難勧告を発表しました。柿崎区に発表された「避難指示(緊急)」は、災害が発生するなど状況が悪化し、人的被害の危険性が非常に高まった場合に出されるもので、緊急に避難することが必要です。

幸い、両日ともその後雨も落ち着き、各河川ともに警戒水位を下回ったことから、避難勧告などはそれぞれの日のうちにすべて解除されましたが、多くの市民が一日中不安な日を過ごしました。

また、1日の大雨では、民家で床上浸水が2軒、公共施設の被害が2件、道路や農地の被害が49件生じました。3日は、五智公園の法面の土砂が崩落したほか、道路や農地で79

件の被害が生じました。

また、各地に開設された指定避難所へは、1日は135人、3日は146人が一時避難しました。そのほか、今回初めて開設された福祉避難所には、1日に6人、3日に3人が一時避難しました。

日本共産党議員団は、土砂災害警戒情報の発令と同時に、手分けして被害のおそれのある地域を巡回したほか、避難勧告が出されると、各避難所等を訪問しました。おおむねどの避難所も担当職員によって迅速に開設準備が行われ、避難した市民を受け入れていました。1日の夕方に避難準備情報が出された高田区のある地域では、避難所開設と同時に町内会の役員も駆けつけ、市の職員と協力して受け入れ体制を取っていました。

高田公園の外堀の排水を担う水戸の川では、関川にポンプで排水しましたが、一時なかなか水位が下がらず、現在の設備では十分な対応ができません。おそれがあることが明らかに



矢代川、瀬渡橋付近(7/1 13:35)



水戸の川排水機場付近(7/1 16:40)



同左(7/3 7:10)



吉川、吉川橋付近(7/1 11:30)

女性消防団員も機敏に 9日に上越消防大会

火災への備えや消防活動には性別はありません。そのことを証明したのが、9日に市役所駐車場で行われた上越消防大会です。

この大会は、上越三市の各消防団が日頃の訓練の成果を披露するもので、女性消防団員のポンプ操法も披露されました。出場した妙高市消防団の女性消防団チーム(写真)は、機敏な動きで放水し、会場を沸かせました。同チームは、今後、県・全国大会にも出場するとのことです。



行政視察を中止

大雨災害への対応を優先するため、市議会では、3日から予定していた総務常任委員会と文教経済常任委員会の行政視察を中止しました。

また、10日から予定していた厚生常任委員会の行政視察は、視察先(北九州市など)が被災していることから、こちらも中止しました。

日本共産党上越市議員団ニュース

No. 554 2017年7月16日

連絡先
 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
 橋本 正幸 080-1980-9855 (三和区鴨井)
 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
 平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)